

ブドウ黒とう病情報第1号

発生が多いほ場があります。注意してください。

平成24年6月4日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

1 発生状況

- (1) 5月下旬の巡回調査において、18ほ場を調査したところ、県内各地の4ほ場でブドウ黒とう病の発生を確認しました。発生状況は、発生ほ場率22.2%、発病新梢率1.28%、（平年：発生ほ場率2.59%、発病新梢率0.03%）と、過去10年間と比較して発病ほ場率、発病新梢率ともに3番目に高い状況です。
- (2) 5月下旬の調査で、発病新梢率が15%を超えるほ場もありました。

2 防除上注意すべき事項

- (1) 発病葉や発病枝梢は、ほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。
- (2) 発生を認めたら直ちに薬剤防除を行いましょう（下表参照）。
- (3) ボルドー液を袋かけ後から収穫までに2回程度散布しましょう。
- (4) 降雨が続くと発生が増加するので注意しましょう。
- (5) QoI剤耐性のべと病菌が優占している地域では、アミスター10フロアブル、ストロビードライフロアブル、ホライズンドライフロアブルの使用を控えましょう。
- (6) 農薬の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努めましょう。

表 ブドウ黒とう病に対する主な防除薬剤

薬 剤 名
アミスター10フロアブル
ストロビードライフロアブル
ホライズンドライフロアブル
マネージDF
オンリーワンフロアブル
4-4式ボルドー液

3 被害の様子（図1、2）

本病は、葉、新梢、巻きひげ、果実などで発病します。黒褐色円形の小斑点が拡大し、中央部が灰白色、周辺部が鮮紅色～紫黒色の陥没した病斑となります。



図1 発病葉



図2 発病果実